

令和元年度学校評価 評価結果

前年度の重点目標		主体的に考え、課題解決に向かって自ら行動する生徒の育成を図る。 ア 主体的な学びを引き起こす授業改善の工夫 イ 豊かな人間性を育む教育活動の工夫 ウ たくましく生きるための健康・体力保持・増進の工夫 エ 充実した教育内容を無理なく継続する経営システムの工夫			
分掌による取り組み					
項目	分野	取り組み内容	具体的方策	評価結果と課題	担当
ア	授業改善	生徒の主体性を育成するための授業改善策の検討	①授業公開など職員間の情報交換の場を積極的に設けて授業改善につなげる。 ②アクティブラーニング型の授業やICTを活用した授業への積極的な取り組みを促す。	教員相互の授業実践力の向上を目指して、2学期に1週間の授業公開を行った。また、中学校との連携を視野に植田中学校への授業参観を行った。教科の枠を越えて授業方法についての情報共有を図ることができた。今後も授業方法の改善のための研修の機会を積極的に設けていきたい。	教務部
イ	図書館経営	「主体的な図書委員会活動」(図書委員会の各種係である「イベント企画」、「展示ポスター」、「図書館報・図書館だより」において生徒が活躍する場を拡大する。)	予算の範囲内で、かつ、例年の事例に縛られることなく(1)ゼロから企画立案する。(2)実施する。(3)改善点を明確にする。	主体的な図書委員会活動をテーマに取り組んできた。各係については、「イベント企画」でのスノードームや福袋、「展示ポスター」でのテーマにあった本の紹介やビブリオバトルの試行、「図書館報・図書館だより」での図書館レイアウトの紹介や毎回の原稿作成など、準備段階から互いに意見を出し合い創意工夫するなどよく活動してきた。	情報図書部
イ	キャリア教育	キャリアデザイン実現のためのPDCAサイクルを意識し、自ら考え主体的に行動する生徒の育成	①総合的な探究・学習の時間を含めたキャリア探求活動でPDCAサイクルを意識させる。 ②校外模試への取り組みにPDCAサイクルを意識させる。 ③ワークシートのフォーマット化により、PDCAの手順に慣れさせる。	定期調査や模試、キャリア体験での目標設定や振り返りに取り組ませてPDCAサイクルの定着を図った。事前にスタディサプリのアンケートを配信して入力させたり、PDCAシートに記入させるなど次の行動につながる振り返りを意識させた。また、1年生では、生徒の入力状況をダウンロードして個票を作成し、保護者会で生徒の取り組み状況をお知らせした。PDCAサイクルを回すことで主体的な行動につながることを生徒だけでなく学校全体の取り組みとして行っていけるような働きかけをする必要がある。	進路指導部
イ	生徒会活動	学校行事やさまざまな体験に取り組ませることを通じて、自ら考え主体的に行動する生徒を育てる。	①文化祭のクラス発表の立案、運営に際し、各自に役割、責任を持たせ、協力する場面を設定する。 ②体育祭での縦割りの応援練習や競技、さらに部活動を通して他学年との交流をもたせる。 ③福祉施設との交流やボランティア、竹林整備ボランティアなどへの積極的な参加を呼びかける。 ④一年を通じた様々な取り組みを取材、記録し校誌『爽風』に発表する。	文化祭では、昨年の反省から改善出来る点は改善し、より内容を充実させる。また体育祭においては、生徒主体での運営を確立する。生徒会執行部に関しては、生徒会活動に携わった生徒には、やりがいを見いだして成長していくものもいるので、来年度はさらに様々な活動により自主的に取り組み、自ら考え行動する生徒を育成していきたい。	特別活動部
イ	安全	防災意識の向上を図る	1 防災訓練について、今後3年間でバリエーションを増やす。 2 防災講話において、シェイクアウト訓練・映像による指導を導入する。 3 「減災だより」を年2回発行し、防災係に防災タイプ診断(事前・事後)を実施する。	保健部として、具体的方策を示し、積極的に実施し、生徒・職員ともに、取り組むことができた。防災訓練において、避難経路の確認のみならず、シェイクアウト訓練を抱き合わせ、有識者からの講話、映像などを取り入れることにより、更なる防災意識の向上を図りたいと考える。	保健部
ウ	国際交流	国際交流のさらなる推進をはかる	①大学等、外部の機関や団体と連絡を取り、協力体制を確立する。 ②総合的な探究の時間、学校祭等の時間を用い、より充実した活動内容を検討する。	2年総合の国際理解教育は無事に実施することができたが、担当者の重い負担の軽減が大きな課題として残った。天爽祭のPTA国際交流企画は好評であったが、今後は生徒の参加数を増やすことに一層の工夫が必要である。	総務部
ウ	交通安全指導	交通安全意識の向上と遅刻の減少	①全職員に共通理解を得るとともに、警察との連携を図る。 ②職員会で交通安全に関する情報提供をする。 ③生活交通委員会の交通安全啓発活動を促進する。	自転車無事故・無違反200日ラリーや交通安全キャンペーンなど地域・警察との連携を展開できた。「生徒指導部だより」を発行し、交通安全などを生徒に周知した。しかし、生徒の交通マナーには問題が多く、自転車に係る交通事故も毎年多い。更なる取組が必要である。	生徒指導部
ウ	生徒相談	支援の必要な生徒の早期発見、早期対応に努め、チームで支援する。さらに、生徒の自己肯定感が高まる取り組みを実践する。	①不適応状態になった生徒、保護者に適切な援助をおこない、必要に応じてSCやSSWにつなげ連携を図るよう努める。 ②生徒相談室の広報活動を充実させる。 ③健康観察、こころのアンケート等を通して生徒の心身の状態を早期に把握するとともに、自己肯定感を高める取り組みを実践する。	学校不適応生徒が増える中、担任、相談部と情報を共有しながら連携を図り、SC、SSWによる専門的な立場からの指導・助言を受けながら手厚い支援を行ってきたい。また、保護者、生徒に向けて、「相談室だより」の定期的発行や渡り廊下にポスターを掲示するなど相談関係の啓発をさらに充実させていきたい。	生徒相談部
ウ	いじめ対策	いじめの早期発見と、適切な事案対処	①いじめの情報収集、事案対処に係る「いじめ対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、「いじめのサイン発見シート」の配布などにより生徒や保護者にも通知する。 ②早期発見・事案対処の手順等(マニュアル)を定め、いじめの認知について教職員間の共通理解を深める。 ③「こころのアンケート」を実施し、いじめの早期発見、適切な対処につなげる。	「いじめのサイン発見シート」を配付したり、「こころのアンケート調査」を活用し、生徒の悩みを持つ生徒の実態を教職員間で共有することができた。来年度以降もアンケートを活用した情報共有を継続するとともに、いじめ防止や早期発見に関する啓発活動を委員会としても取り組んでいきたい。	いじめ対策委員会
エ	安全衛生	勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	①各教職員が在校時間の状況を記録し、月ごとに集計する。 ②1ヶ月の時間外在校時間が80時間を超える教職員に対して、面接希望の有無を確認する。 ③集計結果等を安全衛生委員会において確認する。	対象となる教職員全員が、在校時間の状況記録を報告した。また、1ヶ月の時間外在校時間が80時間を超えた場合、月ごとすべての面接希望を確認できた。この結果を安全衛生委員会の議事とすることで、業務の適正化や教職員の健康障害防止についての意識を高めるよう働きかけた。在校時間の状況記録を報告した。来年度も同様に取り組む、持続可能な教育活動を目指していきたい。	安全衛生委員会
学年による評価					
第1学年	学習指導・生徒指導	学習習慣の定着と基本的な生活習慣の確立	①常に計画性を持たせ、主体的に家庭での活動を選択させる力を身につけさせる。 ②遅刻せずに登校することを通して、時間を守る習慣を身につけさせる。	生徒たちは、この1年間、様々な学校行事や、部活動、学習課題に取り組み、基本的な生活習慣を身につけることができた。多忙な高校生活を送る中で、計画を立てて課題をこなしていくことはできるようになったが、これからは、さらに家庭学習や進路研究に充てる時間を増やしていく必要がある。生徒が将来に向けてモチベーションを上げて取り組んでいけるよう、総合的な探究の時間やスタディサプリを利用して、サポートしていきたい。	
第2学年	学校行事	主体的に行事に参加する生徒の育成	①修学旅行、学校祭、スポーツ大会などの学校行事において、委員会や係生徒に積極性を持たせ責任感を涵養するように指導する。 ②各ホームルームにおいても、係生徒だけではなく、より多くの生徒が行事に主体的に参加できるように心がける。	2年生は学校行事や部活動において、概ね主体的に活動することができ、基本的な生活習慣もほとんどの生徒が確立できている。来年度は学習面でより一層の主体性が発揮できるように指導し、各自の進路希望の実現を図りたい。	
第3学年	進路指導	進路目標の実現	①進路に関する最新の情報を提供しながら、PDCAサイクルを活用して個人の目標、適性に応じた進路指導を心掛ける。 ②自習室の設置や学習講座の開催等を通して学習習慣を定着させ、目標実現への意識を高める。	個人面談等を適宜実施し、生徒の適性、進路希望を把握したうえで、個々の生徒を支援することができた。新しい入試システムになっても、きめ細かく支援できる体制を維持したい。	
総合評価		各担当分掌・学年が意欲的に取り組み、相応の成果を上げた。保護者アンケートにおいて、学習・生活・進路・部活動・学校行事など学校生活全般にわたるアンケート項目の多くで一定の満足度を得ていることが確認できた。来年度以降も新たな課題に対応し、更に活力と魅力のある学校づくりに粘り強く取り組んでいきたい。			